



## 慶應義塾大学ビジネススクール

# 株式会社パトライト

パトカーなど警察車両の屋根でくるくると光る横長箱型の散光式警光灯、この警告表示灯で90%以上のシェアを獲得しているのが大阪府八尾市に本社がある株式会社パトライトである。救急車両、建設省・道路公団車両などすべての警光灯を含めても70%以上のシェアを誇る。多用途に使われる一灯式の回転灯でもシェア70%、回転灯では世界一のメーカーである。

しかし、この二つの事業分野をあわせても売上の30%に過ぎない。半導体工場などで欠かせないFA（ファクトリーオートメーション）関連の表示灯、シグナルタワーとして、生産工程の管理・安全管理の役割を担う表示灯の市場シェアは60%である。全体売上の23%を占める。また、拡声器や車載用電子サイレンアンプなど電子音を用いた音声周辺機器でも市場の30%、工場内の生産管理ボードや警察・道路公団車両等に積載のLED表示ボードでも業界トップシェアを占める。

2000年6月パトライトは大阪証券取引所市場第二部に上場した。社員数400名の中堅企業だが、特定市場で極めて強い競争力を有し、2001年3月期連結売上高10,673百万円（前年比18.6%）、経常利益2,195百万円（同48.5%）と高い成長性と利益率を有している。

現在の社長は佐々木宏樹氏（58歳）、父寛一、母敏子の代を継ぐ2代目の社長である。

1947年、早川電機工業（現シャープ）の技術者だった佐々木寛一氏が大阪市阿倍野区に小さな電気部品会社、ササ電機研究所を創業したことにパトライトは始まる。

### 1. 創業

1946年終戦の混乱と新しい時代の胎動に揺れる最中、早川電機工業の技術部長を務めた寛一氏が脱サラを決意し独立する。最初の製品は小型トランス、ベルであった。寛一氏が技術部門、妻敏子氏が生産・経理・労務を担当する二人三脚のスタートであった。翌年、寛一氏が日本で初めてのパーマネントスピーカーを開発する。大きなダイナミックスピーカーに代わり、

---

本ケースは、クラス討議のための資料としてまとめられたものであり、経営管理に関する適切あるいは不適切な処理を示すことを意図したものではない。

本ケースは、慶應義塾大学大学院経営管理研究科教授柳原一夫の指導の下、同研究科M12期修了生大久保隆弘が作成した。作成にあたっては、株式会社パトライトから関連資料の提供を受けるとともに、常務取締役田村是隆氏にインタビューを実施(2001.5)した。